

町立病院の歩み

昭和28年10月1日に開院した「幌延村立国民健康保険病院」は、昭和19年設立の「北海道厚生連幌延病院」を村が買収したもので、昭和29年4月に新病舎を落成しました。レントゲン室や手術室を持ち、内科、外科、産婦人科がありました。昭和30年には増築し、内科、小児科、外科、産婦人科、放射線科、物療科の6科となっています。

昭和42年、「幌延町立病院」と改称し、現在地の栄町6番地に新築移転しました。

町立病院では、昭和45年頃には医師3名が勤務していましたが、昭和50年には医師2名となり、昭和58年からは医師1名で運営されています。

歯科については、昭和63年3月まで個人医院が営業されていましたが、医師の転出後、歯科医師不在となったことから、9月に町立病院内に歯科診療室を設置し、施設や診療機器を町が貸与するといったかたちの開業歯科として運営されています。

また、昭和29年8月に「村立問寒別開拓診療所」も開設し、内科医1名、看護婦1名が配置されていました。昭和44年からは常駐の医師はなく、町立病院からの出張診療となっています。

その後、町立病院は増床や結核病床の設置と廃止、ボイラー設備や配管設備の全面改修、エレベーターの設置などを経て、現在に至っています。



幌延村立国民健康保険病院

表1 町立病院の歴代院長

昭和28年10月～32年8月	高山 俊一 氏
昭和32年9月～36年7月	黒田 雪 氏
昭和36年8月～50年3月	浅野 稔 氏
昭和50年4月～50年12月	鶴田 忠孝 氏
昭和50年12月～53年8月	吉田 康彦 氏
昭和53年8月～55年7月	佐藤 満旗夫 氏
昭和55年7月～58年8月	上野 鉄 氏
昭和58年9月～58年11月	尾崎 崇 氏
昭和59年11月～現在	浦山 淳 氏

表2 幌延町立病院の主な沿革

昭和42年	幌延町立病院と改称、栄町6番地に新築移転
昭和53年4月	増築（一般病床40床、結核病床13床、計53床）
昭和54年8月	肺機能測定装置導入
昭和55年12月	透視撮影機導入
昭和57年3月	産婦人科閉科
昭和63年9月	歯科開設
平成5年7月	結核病床（13床）の廃止
平成23年10月	幌延町立診療所となる

